

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成22年9月30日(木)6校時
学級 2年2組 男子14名 女子16名 計30名
場所 2年2組教室
授業者 教諭 藤澤 周一

- 1 単元名 「生きもののお話を読んで、かかわり合いをつたえよう」
教材名 中核教材「サンゴの海の生きものたち」(光村図書)
補助教材「さかなとみずのいきもの」(フレーベル館) 他

2 単元について

(1) 教材について

第1学年及び第2学年の「B書くこと」の目標は、「経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる」ことであり、「C読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる」である。これを受けて、本単元では、「書くこと」の内容「イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」と、「読むこと」の内容「イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」の指導事項を重視し指導していく。

本教材は、生きものの特徴を叙述にそって正しく読み取るとともに、お互いが関わり合って共存している「共生」とらえることをねらいとしている。海の生きものたちの不思議な生態が、「初め」「中」「終わり」という基本的な文章構成で帰納的にまとめられているが、説明の並列な関係、その共通項を見いだすまとめというやや複雑な構成となっており、従来のものに比べ読解が難しくなっている。

そこで、「ふかめる」では「初め」の記述を丁寧に読み、読み進める際の方向付けをして、説明の中心的事柄をとらえたり、大まかな文章構成を把握したりするという説明的文章を読み取る方法を身に付けさせることが大切となってくる。「ひろげる」では、「ふかめる」の学習を活かした「生きもののかかわり合い」を紹介する絵と文を作り、冊子にまとめることで、他の生き物にも興味を持ち、楽しんで読書しようとする態度も育てていきたい。

(2) 児童について

児童は、一学期単元「生きもののお話をよんで、パンフレットにまとめよう」で、時間的な流れに沿って、事象の理由を考えながら読むことを学習した。その中で、時間の順序や理由付けを示す言葉に着目し、その役割に気付いたり、「問い」と「答え」に当たる文を抜き出し、パンフレット形式の紹介の文にリライトしたりする活動に取り組んだ。それらの活動を通して、時間の順序や理由付けを示す言葉に気を付けて読むことができるようになってきている。

しかし、様々な説明の中から中心的な対象や事柄に着目できる児童は少ない。また、接続詞や文末表現の違いに気を付けて事象とその理由を読み取ることが不十分な児童も数名いる。

そこで、本単元では、一つ一つの語句や表現に気を付けてサイドラインを引いたり、ワークシートに書き込んだりしながら読み取らせることで、読解の方法を身につけさせていく。併せて、動作化なども取り入れながら、その理解を容易にする手立てを組んでいきたい。さらに、教材文での読み取りを活用し、写真を伴った説明的文章から、「かかわり合い」についての説明を抜き出し、図と文章で表す絵紹介文を作成する。それらの言語活動を通して、引用する力を児童に育てていきたいと考える。

(3) 指導にあたって

「とらえる」では、ダテハゼとテッポウエビの「かかわり合い」を、ペープサートで演じてみせる。動作化なども取り入れながら、教師が大きな魚、子ども達がハゼとエビ役になり、近づいたら穴に逃げ込むなど、十分楽しませながら、学習への関心を持たせる。また、このような「かかわり合い」をもつ生きものが他にもいないか問い、それらを調べ、まとめる方法としての絵紹介文作りに気付かせる。そして、「たすけ合う生きものたち」というタイトルの絵紹介文カード集をグループで作成し、出来栄を見てもらうために上級生(3・4年生)の教室に届けるという活動を考えさせ、目的意識、相手意識を持たせる。その際、ダテハゼとテッポウエビの絵紹介文カードも提示し、子ども達に学習の見通しをもたせたい。

「ふかめる」では、中核教材を「かかわり合い」を視点としながら、絵紹介文様式にあてはめリライトしていく。主述の関係や、どの生き物のことを説明している文章なのか確かめるために、ここでも動作化などを十分行い理解の手助けとしていきたい。また、絵紹介文作りのために必要な技能を「わざ」としておさえ、子ども達が絵紹介文作りのためにいつでも活用できるように掲示していく。

「ひろげる」では、共生関係をまとめた自作資料を教師が提示し、子ども達が相利共生について自分の興味あるものを選べるように準備したい。そして、モデル提示なども行いながら、読み取ったり書き換えたりする時の方法を学ばせ、絵紹介文カードをひとり学びとして作成させる。それをとも学び（ペア）で検討し、一冊にまとめさせ、上級生に届け、感想をもらうなどさせたい。また、単元の最後に、片利共生、寄生についても紹介し、児童の説明的文章への興味・関心へとつなげたい。

(4) 活用させたい「知識・技能」

既習事項 ○前学年 ●前単元	既習事項の活用
<p>【B 書くこと】 「構成」 ●「初め」「中」「まとめ」の構成で文章を書く。 「記述」 ●紹介カード形式の簡単なパンフレット（小冊子）を作る。</p> <p>【C 読むこと】 「文章の解釈」 ●必要な文を抜き出し、目的に合わせて書きかえる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 「言葉の特徴やきまりに関する事項」 ●文章の中の主語と述語を見つける。</p>	<p>【B 書くこと】 「構成」 ・「中1」「中2」の並列関係を主語述語に注意し、まとめる。 「記述」 ・「このように」を使って、かかわり合いをまとめる。（帰納的なまとめ方） ・カード形式の簡単な絵紹介文作りを行う。</p> <p>【C 読むこと】 「文章の解釈」 ・説明的文章から必要な文を抜き出し、絵紹介文の様式にあてはめてカードに表す。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 「言葉の特徴やきまりに関する事項」 ・主語と述語の関係に注意して書く。</p>

3 単元の目標と評価規準

観点	目標	評価規準
国語への関心・意欲・態度	○絵紹介文作りに関心を持ち、説明の並びや主述に注意しながら、分かりやすい絵紹介文を作ろうとする。	○絵紹介文作りに関心を持ち、説明のしかたを考えながら分かりやすい絵紹介文を作ろうとしている。
書く能力	◎知りたいことなどを調べ、分かったことを構成にあてはめ、紹介の文として書くことができる。 (イ)	○調べたことを、絵紹介文の様式にあてはめて書いている。
読む能力	◎必要な文や言葉が書かれてある事柄から、絵紹介文の様式で書き換えるために、生き物のかかわり合いを読むことができる。 (イ)	○絵紹介文を作るための要素をとらえ、書かれてある事柄から大事な言葉や文を選び、絵紹介文の様式で書き換えている。
言語についての知識・理解・技能	○主語と述語の関係に注意して読むことができる。 (伝イ(カ))	○主語と述語を正しくとらえ、それぞれの照応について理解している。

4 単元の指導・評価計画（10時間扱い）

段階	時間	目標	○学習課題 ・主な学習活動 ☆主な支援の手立て	評価規準 【評価の観点】 (評価方法)
とらえる	1・2	学習課題を設定し、学習計画を立てることができる。	○学しゅうのめあてをきめ、学しゅうのけい画を立てよう。 ・ダテハゼとテッポウエビのかかわり合いを紹介する。 ・学習課題「たすけ合う生きものたちをしようかいしよう。」を設定し、学習計画を立てる。 ☆写真を掲示し、ペーパーサートや動作化も取り入れながらかかわり合いをとらえさせる。 ☆絵紹介文カードを準備し必要な要素を考えさせる。	「たすけ合う生きものたち」について絵紹介文を作り上級生に読んでもらおうという意欲をもって学習に取り組んでいる。 【関・意・態】 (観察・発言)

ふかめる	3・4	「問い」の部分を読み取り、イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを絵紹介文の様式で書き換えることができる。	○イソギンチャクとクマノミのかかわり合いをまとめよう。 ・「問い」と「中1」を読む。 ・かかわり合いを視点として両者の関係を読み取る。 ☆それぞれの体の仕組み(特徴)を読み取り、サイドラインを引かせる。 ☆ワークシートを使い、始めに話者の場合、次に紹介文の場合の書き方で、段階を踏んでかかわり合いをとらえさせる。 ☆動作化を取り入れながらかかわり合いをとらえさせる。	かかわり合いについて書かれている箇所を的確におさえ、サイドラインを引いたり書き抜いたりしている。 【読む能力】 (ワークシート)
	5	ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを絵紹介文の様式で書き換えることができる。	○ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いをまとめよう。 ・「中2」を読む。 ・かかわり合いを視点として両者の関係を読み取る。 ☆ワークシートを使い、始めに話者の場合、次に紹介文の場合の書き方で、段階を踏んでかかわり合いをとらえさせる。 ☆動作化を取り入れながらかかわり合いをとらえさせる。	読み取ったことから必要な言葉や文を書き抜き、紹介文を書いている。 【読む能力】 (ワークシート)
	6	説明文の構成をとらえ、筆者の問いに対する答えを読み取ることができる。	○「とい」の「答え」を考えよう。 ・「初め・中1・中2・終わり」のまとまりに分ける。 ・「問い」に対する「答え」が書かれてある箇所を見つける。 ☆絵紹介文の様式に当てはまることに気付かせる。	書かれている内容の大体をつかみ、筆者の「問い」に対する「答え」を読み取っている。 【読む能力】(発言)
ひろげる	⑦本時・8・9	共生関係の自作資料から、紹介したいことを調べ、絵紹介文の様式で書くことができる。	○生きものの「かかわり合い」をしらべ、たすけ合う生きものたちをしょうかいカードに書こう。 ・グループで分担し、共生の生きものについて調べる。 ・調べたことを、カードにまとめる。 ・カードを持ち寄り冊子にまとめる。 ☆グループで調べたいものが重ならないように調整させる。(1人2枚カード作成) ☆モデル提示をし、見通しを持たせてから取り組ませる。 ☆主述の関係などペア学習で確認させてからまとめさせる。	調べたことを、絵紹介文の様式でまとめている。 【書く能力】 (ワークシート) (絵紹介カード)
	10	他のグループの絵紹介文カード集を読み合い、感想を交流することができる。	○「たすけ合う生きものたち(絵紹介文カード集)」を友だちにしょうかいしよう。 ・他のグループのカード集を読み合い、友達の文章のよさを見つけたり、感想を話したりする。 ☆評価をもらうときの観点を与える。 ☆事前に上級生にカード集を渡し、評価をもらう。	進んで友達のカードを読み、感想を交流している。 【書く能力】 (感想カード(付箋))

5 本時の指導(7/10時)

(1) 目標

共生関係の自作資料から、紹介したいことを調べ、絵紹介文様式で書くことができる。

(2) 本時の指導にあたって

本時は、「サンゴの海の生きものたち」の読み取りを生かして、生き物の「かかわり合い」について調べ、絵紹介文カードを作る学習である。「ネジリンボウとニシキテッポウエビ」の絵紹介文カードをモデルとして、ペア学習も取り入れながら、カードの作り方を学んでいくものである。「サンゴの海の生きものたち」では、「かかわり合い」をキーワードに両者の関係を並列で並べ、まとめるという新出の構成を学習した。それを活用し、自分のカード作りへとつなげていきたい。

<仮説との関わり>

- 手立て1 ・「中1」「中2」の並列関係を、主語述語に注意しまとめる。
・「このように」を使って、かかわり合いをまとめる。
- 手立て2 ・ネジリンボウとニシキテッポウエビの絵紹介文カードを提示し、カード作りのポイントをつかませる。
・ペア学習で絵紹介文作りの技が活かされているか確かめさせる。
- 手立て3 ・「学習内容の理解」と「活用」の2観点で評価し、学習への意欲や学びのよさの気付きへとつなげていく。

(3) 展開

段階	学習内容・学習活動	支援の手立てと評価	準備
とらえる 5分	1 前時までの振り返りをする。 2 本時の課題を確認する。 生きものの「かかわり合い」をしらべ、たすけ合う生きものたちをしょうかいカードに書こう。	・学習計画表を使って、確認できるようにしておく。	
たしかめる 33分	3 課題解決の見通しをもつ。 4 課題を解決する。 【活用】手立て1 「中1」「中2」の並列関係を主語述語に注意しまとめる。 【活用】手立て1 「このように」をつかって、かかわり合いをまとめる。 【活用】手立て2-ア 説明的文章からの必要な文の抜き出しをライトし絵紹介文カードに表す。 5 交流し、考えを深める。	・生きものの「かかわり合い」に驚きをもって出会わせる。 ・事例を8つ紹介し、グループで分担させる。 ・モデルとなる絵紹介文を提示し、自作資料からどのようにカード作りを行うのかポイントをつかませる。 ・絵紹介文の様式で作ったカードを用意し、下書きを書かせる。 ◇絵紹介文作りの「わざ」 ①「かかわり合い」が書かれている文を抜き出す。 ②主語と述語に気を付けて書きかえる。 ③「このように」を使って、2つのまとまりをまとめる。 ④絵と文を合わせる。 ・互いに見せ合って、絵紹介文カード作りの技を観点に友達から助言をもらわせる。 ・よい作品2点を全体に発表させ、技を確認するとともに、一般化を図る。 【目指す姿】 紹介する内容を決め、2つの事例を「このように」でまとめた絵紹介文カードを作ることができる。 【評価規準】（書く能力） 調べたことを絵紹介文カードにまとめている。 《具体の評価規準》 B 絵紹介文の様式で、教材文から必要な文を抜き出し、カードにまとめている。 机間巡視の際「このように」という言葉から2つの事例をまとめていることに気付かせる。	・移動黒板 ・掲示用自作資料 ・ワークシート ・児童用自作資料 ・絵紹介文カード ・実物投影機 ・プロジェクター
まとめる 7分	6 本時の学習を振り返る。 (1) 自己評価・感想を記入し、発表する。 (2) 次時の学習内容を知る。	・具体的な判断規準を示し「学習内容の理解」「活用」の2観点から、自己評価させる。 例) 「このように」でまとめて書けた。→◎ かかわり合いが書けた。→○ ・友達によさに触れさせる。 ・本時で身に付けた力を確認できるような振り返りを取り上げ、学習のまとめとする。	

(4) 板書計画

生きもののお話を読んで、かかわり合いをつたえよう

生きものの「かかわり合い」をしらべ、たすけ合う
生きものたちをしようかいカードに書こう。

ネジリンボウとニシキテッポウエビ自作資料

絵紹介文カード

ネジリンボウと
ニシキテッポウ
エビの絵

事例1

事例2

まとめ

既習事項（掲示済）

◇絵しようかい文作りの「わざ」

- ①「かかわり合い」が書かれている文をぬきだす。
- ②しゅごとしゅつごに気をつけて書きかえる。
- ③「このように」をつかって、二つのまとまりをまとめる。
- ④文と絵を合わせる。

移動黒板（右）

オトヒメエビとコケウツボ
自作資料

オニイトマキエイと
ミズレチョウチョウウオの
自作資料

キンチャクガニと
イソギンチャク自作資料

イソギンチャクと
ソメンヤドカリ自作資料

移動黒板（左）

オオアカホシサンゴガニと
サンゴの自作資料

クロシジミとクロオオアリの
自作資料

サイとウシツツキの自作資料

ドードーとタンバラコクの
自作資料